

1996年9月6日、一人のベストセラー作家が、帝国ホテルで執筆中、死んだ。

1996年は、日本で一番書籍が売れた年だった。



# 京都に、女王と呼ばれた作家がいた ~山村美紗とふたりの男~

(仮題)

葬儀に、喪主として現れたのは、西村京太郎でもなく、娘の山村紅葉でもなく、担当編集者も知らない男、山村巍だった。



著者：**花房観音**

判型：四六判上製 200P / 本体価格：1,500円+税  
ISBN:978-4-908443-52-7



※デザインは仮のものです

## 花房観音 について

1971(昭和46)年、兵庫県豊岡生まれ。京都女子大学文学部中退後、映画会社や旅行会社などの勤務を経て、2010年に「花祭り」団鬼六賞大賞を受賞しデビュー。男女のありようを描く筆力の高さには女性ファンも多い。著書に『寂花の乗』『花祭り』『萌えいづる』『女坂』『楽園』『好色入道』『偽りの森』『花びらめくり』『うかれ女島』『どうしてあんな女に私が』『紫の女』など多数。現在も京都でバスガイドを務める。

## 「京都で人が殺されていないところはない」

京都に住み、京都を描き続けたミステリーの女王・山村美紗の生涯を、京都に住み、京都の女を描き続ける花房観音が描きます。

出版社の社長たちが原稿欲しさにあしげく通い、

西村京太郎邸と通路で結ばれた豪邸に住み、

京太郎の求婚を拒み続け、

他の作家が京都ミステリーを書くことを許さず、

お供を連れてアバンティブックセンターに通い、

松本清張に愛され、

ベストセラー作家の名をほしいままにした女。



山村巍画

そんな山村美紗には、美紗が住む豪邸の向かいのマンションに住み、よなよな病弱な美紗を介護する夫がいた。

発売日 **7月中旬** / 注文締切 **6月25日**

FAX での  
ご注文  
(受注センター)

FAX: **06-6310-7057**  
(TEL: 06-6338-3078)

大阪府吹田市南金田 1-11-11-202  
HP: [www.jimotonohon.com/](http://www.jimotonohon.com/)  
●発行/西日本出版社

書店名(番線)

新刊

## 京都に、女王と呼ばれた作家がいた ~山村美紗とふたりの男~

(仮題)

■著者：花房観音 ■判型：四六判上製 200P  
■本体価格：1,500円+税 ■ISBN 978-4-908443-52-7

大阪府吹田市南金田 1-11-11-202 TEL:06-6338-3078 FAX:06-6310-7057

注文数(新刊委託)

ご担当

様

日付

冊

●発売/西日本出版社